

【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

|           |                                                                                                                                                                                                       |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業番号      | D-20-1                                                                                                                                                                                                |
| 事業名       | 旭市防災総合推進事業（計画策定等）                                                                                                                                                                                     |
| 事業費       | 総額 181,019 千円（国費 135,762 千円）<br>（内訳：調査委託費 13,440 千円、設計費 2,394 千円、用地費 9,027 千円、<br>工事費 154,992 千円、監理費 1,166 千円）                                                                                        |
| 事業期間      | 平成 24 年度～平成 26 年度                                                                                                                                                                                     |
| 事業目的・事業地区 | 事業目的<br>復興まちづくり総合支援事業として、地区公共施設（避難道路や避難施設等）、防災まちづくり拠点施設（防災倉庫等の避難所設備）、及び高質空間形成施設（避難誘導看板や照明施設等）を整備または検討するため、旭市復興まちづくり計画を策定する。<br>また、防災上危険な市街地の安全性の向上のために、緊急に整備する必要性があり、直ちに効果が期待できる避難施設として津波避難タワー等を設置する。 |
| 事業地区      | 復興まちづくり計画策定：市内全域<br>津波避難タワー設置：旭地区、飯岡地区<br>避難所への発電施設等設置：飯岡地区<br>防災備蓄倉庫設置：飯岡地区                                                                                                                          |
| 事業結果      | ○復興まちづくり計画策定<br>平成 25 年 3 月に「旭市復興まちづくり計画」を策定。計画策定にあたり、以下の調査等を実施した。<br>(1) 津波シミュレーション (2) 津波避難道路詳細検討 (3) 津波避難施設等詳細検討<br>(4) 先行着手避難タワー地盤調査 (5) 避難所等の設備詳細検討                                              |

### ○津波避難タワー設置

海岸部において一時的に避難できる中高層建築物がない地域について、津波避難タワー（4基）を設置した。

（施設概要）

- ・ 三川地区 高さ 8.0m（海拔 4.6m）、建築面積 57.2 m<sup>2</sup>
- ・ 矢指地区 高さ 10.0m（海拔 3.1m）、建築面積 57.2 m<sup>2</sup>
- ・ 飯岡地区 高さ 10.0m（海拔 3.9m）、建築面積 51.3 m<sup>2</sup>
- ・ 富浦地区 高さ 9.0m（海拔 3.6m）、建築面積 67.2 m<sup>2</sup>



### ○避難所への発電施設等設置

停電・断水時にも電力供給できるよう、飯岡地区の防災備蓄倉庫にカセットガス式発電機を設置した。



### ○防災備蓄倉庫設置

東日本大震災の際に避難所としても利用した飯岡小学校及び三川小学校において、コンテナ式の防災備蓄倉庫を設置した。



## 事業の実績に関する評価

### ① 事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価

津波シミュレーションから浸水予測範囲が内陸部まで及ばないことを確認し、甚大な被害を受けた地区等から内陸部を結ぶ道路を、第一優先として整備を進めている。加えて、津波到達予想時間内に浸水予測範囲外へ避難することが困難な人の緊急的施設として、避難路から確認しやすい位置に避難ビルの指定、避難タワーを建設している。また、東日本大震災のような大災害が発生した場合、既存の防災倉庫の容量では対応しきれないため、新たに倉庫を設置したほか、停電に備えてガス式発電機を購入し、災害対策の増強を行うことができた。

### ② コストに関する調査・分析・評価

千葉県が行った津波シミュレーションの公表が平成 24 年 4 月と早く、その結果を用いることができたため、市独自の検討が省略でき、コスト縮減につながった。

### ③ 事業手法に関する調査・分析・評価

千葉県が行った津波シミュレーションによる津波浸水予測範囲、浸水深さ、到達時間等のデータを活用できたことで工期短縮が図れ、予定していた事業期間内に完了し、津波避難体制を構築することができたことから、事業手法として妥当と考えられる。

事業担当部局

総務課地域安全班 電話番号：0479-62-5311